

Def Doc No. 2005

Exh. # _____

證據第三號ノ二

伴身收容所ニ於ケル衛生環境改善ニ關スル意見

（陸軍軍醫學校調査班）

Def Doc No. 2005

證據第三號ノ二

伴收容所ニ於ケル衛生環境ノ改善ニ關スル意見

(陸軍軍醫學校調査班)

右ハ當科保管中ノ書類ノ正確ナル寫ナルコトヲ證明スル

昭和廿貳年六月七日

復員廳第一復員局業務部醫務科長

事務官 井口 義弘

俘虜收容所ニ於ケル衛生環境改善ニ關スル意見

陸軍軍醫學校調査班

俘虜ノ取扱ハ國際公法及其他諸規則ニヨリ合法的ニ實施セラルベキモ關係者
 ガ往々敵國人ノ風習未知ナル爲ニ誤解ヲ生ジ或ハ取扱上ニ遺憾ナル結果ヲ招
 ヲ徴ニ對シ宣傳的資料ヲ提供スルガ如キ事例無キニシモアラズ殊ニ日常卑
 近ナシ衣食住ニ就テ物議ヲ醸スガ如キコト比較的屢々ナリトス然リトハ云ヘ
 國民ガ困苦缺乏ニ耐ヘアルノ秋物資飽滿シアリタル敵國俘虜ニ對シ彼等ノ口
 腹ヲ満足セシムルノ要ハ更ニナク人道上許サルベキ最小限度ノ生活ヲ保障ス
 ルニ止ムベキモノナラムモ一面彼等ノ勞力ヲ利用セントスルニハ別途ノ見地
 ヨリ最モ勞働能率ヲ向上セシムベキ環境ヲ構成シ健康ノ保持、勞力ノ確保ヲ
 圖ルコト亦必要ナルベシ
 一方又戰地ニ於テ非衛生的ナル生活ヲナシ惡度ノ浸淫セル群衆ヲ内地ニ輸入
 シ勞力資源トシテ各方面ニ於テ勞役セシメラル、時ニハ國民ニ對シ疫疾ヲ傳
 播セシムル虞ナシトセズ防ニ遺憾ナキヲ期スルハ單ニ彼等ノ保健衛生上ノ
 點ヨリノミナラズ國民ニ被害ヲ蒙ラシメザル見地ヨリモ十分考慮ヲ要スベキ
 モノト思考ス

敘上ノ見解ヨリ東京俘虜收容所關係ノ俘虜ニ就キ調査研究セル成績ヨリ彼等ノ衛生環境ノ改善ニ關スル意見ヲ述ブルニ以下ノ如シ

ノ俘虜ハ一般ニ顔色不良營養衰へ殊ニ入院患者ニ於テ戰前体重ノ二割乃至三割ヲ減ゼル者尠カラズ之等營養低下ハ諸種原因ニヨルベキモ營養ノ不及ハ最重要ナル因子ト思考セラルカ、ル營養障礙ハ主トシテ戰年間及其後ニ於ケル占領地收容所内起居ノ間ニ發生セルモノ、如ク内地に上陸後ハ遂次恢復シツ、アルモノト認メラレタルモノ一部高度營養失調者ニ在リテハ増悪シ死ニ到ルモノ亦尠カラザル狀況ナリ

營養不及ノ理由ヲ考察スルニ熱量トシテハ概シテ十分ナルモ食習慣ノ根本的相違ニヨリ邦食支給ノ際ハ比較的ニ蛋白質・脂肪ノ不足、含水炭素ノ過剩ヲ來シ結果彼等ニトリ主營養素ノ缺乏、ヒイテハ諸種「ビタミン」ノ不足ニ基キ營養失調症狀ヲ招來スルニ至リタルモノナルベシ

彼等ニ對策トシテハ彼等ノ食習慣ヲ考ヘタル食品ヲ與ヘ彼等ノ嗜好ニ應ズルカ加ク調理セシムルヲ可トスベシ尙各收容所並ニ捕虜患者收容病院ニ於テハ患者食トシテ彼等ノ嗜好ニ適スルガ如キ食餌ヲ調理スルノ要アルベシ

(粥ハ一般ニ好マザルガ如シ)

「ヴァイタミン」日缺乏症狀顯著ナルヲ以テ主食ニハ玄米・米麥ヲ與ヘ又神

2

經炎脚氣症狀著シキ者ニハ特ニ糠ヲ加給スルヲ可トスベシ
捕房ハ一般ニ身体不潔ヲ極メ被服ハ汚染破綻シ虱ヲ育スル者多シ尙一般ニ
熱地ニ在リタル爲ニ製ナル上日本ノ冬期寒度ニ對スル抵抗弱キ爲カ肺炎ニ
テ死亡セル者相當數アリ右ニ對シテハ被服ノ修理洗濯ヲ勵行セシメ季節ニ
應ジ粗衣ナルトモ増加着裝セシムルヲ必要トスベシ殊ニ寒地ニ勞動セシム
ル際ニハ若干ノ被服改善ハ勞動觸率ヲ増進スル上ニ甚ダ有利ナルベシ尙居
室ハ成シ得ル限り賊風ノ侵入防止ヲ圖リ感冒性疾患ノ多發ヲ豫防スルノ着

意亦肝要ナリ

3

皮膚ハ一般ニ乾燥萎縮シ濕疹疥癬ヲ有スル者甚ダ多シ俘虜英人醫師ノ言ニ
ヨレバ米食ニヨリ「ライヌ、イツチ」ナル皮膚病ヲ起シ甚シク搔痒感ヲ訴
フトナスモ榮養障礙ノ結果皮膚ノ榮養亦衰ヘタル上ニ入浴ノ機會ナキヲ以
テ搔抓スル機會多ク結局濕疹ヲ招來シ更ニ虱疥癬ノ影響ニヨリ皮膚ノ萎
延ヲ早ルハ蓋シ止ムヲ得ザル所ナルベシ、疥癬ノ重症ナル者ハ身体各所ニ
無數ノ膿瘍ヲ形成シ甚ダシク不潔ナリ
右ニ對シテハ水浴成シ得レバ温浴ノ機會ヲ成ルベク多カラシムト共ニ被服
ノ保潔・乾燥ヲ圖ラシメ又頭髮ハ成ルベク短ク剃ラシムルヲ可トス尙疥癬

5 捕房中營養障礙高度ナル者ヲ調査セルニ症狀甚ダ複雑ナルモ之ヲ要約セバ

凡ソ左ノ如シ

(イ)慢性赤 又ハ慢性腸炎後ノ衰弱 (甚ダ多シ)

(ロ)「マラリア」後ノ貧血衰弱 (相當數アリ)

(ハ)脚 氣 (比較的少シ)

(ニ)營養障礙ニ伴フ多發神經炎 (相當多ク脚氣削瘦型ニ近似セルモ人種的相

違ノ爲カ日本人ニ見ル如キ脚氣ノ諸症狀ヲ具備セバ主トシテ下肢 (特ニ

上肢)ノ痠痛等神經炎症狀顯著ニシテ視神經炎ノ症狀ヲ伴フモノ亦

比較的多シ、本症狀ハ既往ノ營養失調症ニハ特記セラレザリシ所見ト認

ム

慢性赤痢又ハ慢性腸炎後ノ衰弱ハ死亡率高度ニシテ適當ナル時期ニ入院加

療セシムルヲ要スベシ又多發性神經炎ニ於テハ下肢特ニ足趾ノ疼痛激烈ニ

シテ堪ヘ難ク寒冷ニヨリ決感ヲ覺エ之カ爲惡化シ懷疽ヲ生ジ下肢切断ノ止

ムナキニ至リタル例アリ「ビタミン」BI劑ノ效果稍々認めラルモ高度

ノ障礙ニ對シテハ效果無キヲ以テ之亦早期加療ヲ要スベシ

6 敘上ノ如ク疾病準備狀態ニ在ル伴房ニ於テ適當ナル早期治療ヲナスニハ現

在ノ旨ニ、相模原兩陸軍病院ノ收容カニテハ到底不可能ナルヲ以テ收容所ニ
小規模ナガラ收容施設ヲ準備シ又ハ休養室ノ擴充ヲ圖リ捕虜ノ醫師等ヲ活用
シ診察ニ從事セシムルハ勞力資源保持上一考ヲ要スベキモノト認ム
尙多發神經炎ノ症狀ヲ呈スルモノハ心筋障礙・傳達障礙等ヲ伴フ場合比較的
多キヲ以テ過勞セシムル時ニハ急死ヲ來ス虞アルヲ以テ勞役ノ種類又ハ休養
要否決定上考慮ヲ要スベシ
7 病名別死亡ノ狀況別表ノ如シ

備考	計	五分所 所病	三分所 所病	二分所 所病	一分所 所病	本所 所病	
ノ病ハ病院收容後、所ハ所内死亡ヲ示ス 2 四分所ハ開所早々ニシテ患者ナシ	二〇			五	四	二	赤痢
	三〇		八	四	二	二	腸炎
	一					一	肺炎
	三			一		二	失調
	八		一	四	一	一	肺炎
	一			一		一	敗血
	一				一		口血
	二	一			一		横膈
	三	二		〇	一		脚氣
	一					一	琥珀
	二			一	一		リヤ
	一						精神病
	一		一				チヤ
	八		二	〇	五	九	三

死亡者病名別調査表

二月二十三日
東京停尸收容所事務室